

<対策のポイント>

国際競争力の強化に向け、**ロボット・AI・IoT等の先端技術を活用した「スマート農業」を現場に導入・実証**し、経営効果を明らかにするとともに、スマート農業の最適な技術体系を検討し、情報提供を行うこと等により、**スマート農業の社会実装を加速化**します。

<政策目標>

農業の担い手のほぼ全てがデータを活用した農業を実践 [2025年まで]

<事業の内容>

1. スマート農業技術の開発・実証

- 生産現場が抱える課題の解決に必要な**ロボット・AI・IoT等の先端技術を現場に導入・実証**し、**経営効果を明らかに**します。

この中で、優先採択枠を設定し、**被災地の速やかな復興・再生**や、**中山間地等の条件不利地域**の生産基盤を強化します。

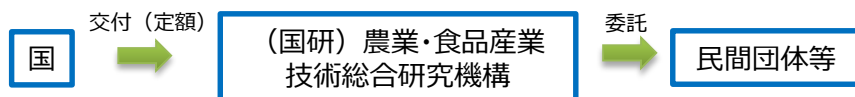
また、異業種やベンチャー等を含め、地域の多様な関係者が参画して、**シェアリング・リース等のスマート農業技術の導入コスト低減を図る新サービス**のモデル実証を行います。

- 併せて、スマート農業と連携しつつ、栽培体系の高度化等を図るための生産・加工・流通関連技術の開発を支援します。

2. 社会実装の加速化のための情報提供

- 実証データや活動記録等を**技術面・経営面から分析**し、その結果を踏まえ、農業者が技術を導入する際の経営判断に資する情報提供や、**スマート農業技術により安価に提供**する**新サービスの創出**を促す取組を実施します。

<事業の流れ>



※ <事業の流れ>の民間団体等は、公設試・大学を含みます。

<事業イメージ>

実証のイメージ

経営管理



経営管理システム

耕起・施肥



自動走行トラクタ
の無人協同作業

栽培管理



ドローン農薬散布

収穫



重量野菜の
自動収穫機

導入が期待される先端技術の例



センシング結果に基づく
施肥・防除、受粉等



自動収穫ロボット



家畜生体データ
センシング



中山間でも使用可能な
気象センサーロボット

技術面・経営面からのデータ分析
最適な技術体系の検討

スマート農業技術の導入コスト
低減を図る新サービスの創出

「スマート農業」の社会実装を加速化

【お問い合わせ先】 農林水産技術会議事務局研究推進課 (03-3502-7437)